

# 安定的な利用を目指したアサリ資源回復技術の研究

(予算区分 県単独 研究期間 平成28～30年度)

担当：水産技術研究所 浜名湖分場 小泉康二

## 【研究の背景とねらい】

- ・ 浜名湖のアサリ漁獲量は、近年、不安定な状況にあり、資源の安定的な利用に対する漁業者の思いは強くなっています。また、平成28年は資源の減少を背景に、観光渡船潮干狩りが中止になるなど地域経済へ大きな影響を与えました。
- ・ 資源減少要因の一つとして、クロダイなどによる食害が漁業者から報告されており、その対策が急務となっています。
- ・ 漁業者は、アサリ資源を増やすため、天然採苗などの新たな取組を開始しましたが、採苗器が埋没するなど、管理負担が大きいことなどが課題となっています。また、湖奥部で大量に発生した稚貝を有効利用するため、禁漁区などへ移殖する取組が行われていますが、近年は十分な稚貝の発生が確認されていないことから、その実態を把握し、対応を検討する必要があります。
- ・ 本研究では、アサリ資源の回復を目的に、食害対策や効率の良い天然採苗技術を開発し、アサリ資源の安定的な利用を目指します。

## 【これまでに得られた成果】

(平成28年度の成果)

- ・ 食害実態を把握するため、水中カメラを設置し観察を行ったところ、アサリを捕食するクロダイの様子が見られ、食害生物の1つはクロダイであることが確認できました(図1)。
- ・ 湖底に網を設置する被覆網試験区と対照区にアサリを収容し、定期的にアサリの残数を確認したところ、半年後でも約8割が生残しており、被覆網の効果が確認されました(図2)。
- ・ 湖奥部の稚貝の発生実態を把握するため、佐久米と館山寺地先の2箇所において、稚貝の生息密度調査(坪刈り)を毎月1回行ったところ、いずれの区域でも殻長25mm前後の移殖用の稚貝がほぼ生息していないことがわかりました。しかし、佐久米では、12月に殻長1～10mmの稚貝の発生が多く確認されたため、その動向について調査を継続しています。



図1 アサリを探すクロダイの様子

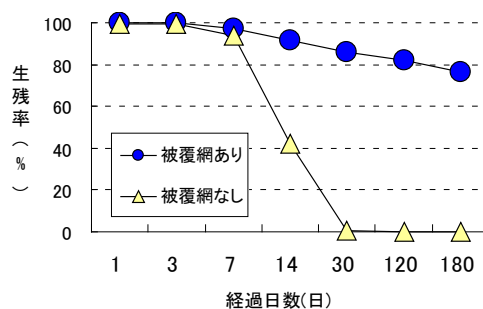


図2 被覆網による食害防除効果

## 【期待される効果】

- ・ 食害対策、埋没しない新採苗器の導入及び稚貝発生の実態に合わせた移殖を行うことにより、資源の安定的な利用に繋がります。
- ・ 安定的な漁業経営や、地域経済へ寄与することが期待されます。

## 【今後の計画】

- ・ 被覆網より設置作業が簡単な囲い網による食害防除効果を検討します。
- ・ 調査地点を増やすなど、広範囲な稚貝の発生実態を明らかにします。
- ・ 管理負担の少ない採苗器を試作し、その効果を確認します。

(作成 平成29年4月)